

岡田昭人著「人生 100 年時代の教養が身に付く オックスフォードの学び方」朝日文庫、朝日新聞出版、2019年1月30日刊を読む

## 人生100年時代の教養が身に付く オックスフォードの学び方

### 1. それは「Say(言ってみる) Start(はじめてみる) Stay(居続ける)」です。

- (1) まず自分でやろうと思うことを、自分自身と周りの人に「Say(言う)」ことです。自分にプレッシャーをかけ、また周りの人から励まされることにより勇気が湧いてきます。
- (2) そしてすぐに「Start(はじめる)」ことが肝心です。思い立ってすぐに行動しなければ、情熱がさめてしまうからです。
- (3) 最後は、たどり着いた場所に「Stay(居る)」姿勢が大切です。旅であれ、転職であれ、引越してあれ、親しみのない環境におかれると、不安や恐れから逃げ出したくなることもあるでしょう。人には置かれた環境に無意識に適応しようとする力があるとされています。焦らず、いらだたず、環境になれてくるまでのんびり構えて居続けることが大切です。

### 2. (1) 以上のように、いきなり大きな目標に挑戦するのではなく、小さな成功経験を段階的に積み重ね、自分の「勝ちパターン」を作ることが大切です。

- (2) その時々「成功した理由」を具体的にノートなどに書き出し、パターン化することを繰り返すことによって自然と自信とモチベーションが得られやすくなるでしょう。

こうした方法は子どもたち、学生、部下の「冒険力」を高める参考になるでしょう。

- (3) オックスフォードで学ぶということは、余程の天才や経済的な制約を全く気にしなくてもいい人以外には、間違いなく人生における一種の「冒険」をするようなものです。
- (4) そしてオックスフォード人にはこの冒険に踏み切るために必要な3つの「S」が備わっていると思います。

### 3. オックスフォード大学の人々に共通する「特質」とは、大きく分けて「6つの能力」に分類できます。

- (1) 統率力：自然に人の上に立ち、他のものをリードする力
- (2) 創造力：模倣を繰り返し、そこから斬新な発想を生む力
- (3) 戦闘力：相手の意志を尊重しながら、結果的に自身の主張を通す力
- (4) 分解力：問題解決の近道として問題の所在を分析する力
- (5) 冒険力：試練や苦難を糧として邁進する力
- (6) 表顕力：自身を深く印象付ける力

### 4. この6つの能力は2つに大別することができ、この両方を統合することによってさらに強力な能力となるのです。

- (1) 人間関係の能力(相互に関係)：統率力、戦闘力、表顕力
- (2) 個人の能力(人間関係における能力を発揮するための武器)：創造力、分解力、冒険力

## 5. 「教えること」こそが最高の学びである

(1)人間にとって知識や教養が最も深く定着するのは、「人に教えるとき」です。

(2)その意味で、「教えることこそが最高の学びである」と断言できます。

### <コメント>

オックスフォード大学教育学大学院で日本人として初めて教育学博士号を取得し、東京外国語大学で 20 年にわたり日本人と留学生に教育学や異文化コミュニケーション学を教えておられる、岡田昭人先生の名著の加筆修正文庫版です。参考になります。是非ご一読を。

2019年6月14日(金)林明夫